

いぬの病気

## そこが知りたい!



どんな  
病気?

# たんぱくしょうせいちょうしょう 蛋白喪失性腸症

腸に異常が起き、タンパク質がもれ出す状態。慢性的な下痢を引き起こす

## おもな症状

もっとも多い症状

### 下痢・軟便

下痢や軟便が毎日続くこともあれば、数日おきに起こる場合も。長引く下痢は、体力を消耗させるため、かかりつけ医に相談を。

### 嘔吐

嘔吐は、必ずしもあらわれる症状ではありません。ゲーゲーとおなかから押し出すように吐き、ヨダレも見られます。

### 元気の消失や体重の減少

下痢や嘔吐で体力を消耗し、元気がなくなったり、体重が減ったりします。下痢や嘔吐がなくても、体内のタンパク質量が減少することから、体重が減ることもあります。

重症化すると...

### 腹水がたまる

腸にもれ出るタンパク質の量が増えると、低蛋白血症になります。そうすると、血液中の水分が血管の外にもれ出し、腹水となってたまります。腹水で胃が押されて食欲不振になることも。

## 蛋白喪失性腸症を引き起こす原因となるおもな病気

蛋白喪失性腸症は、腸の腫れや炎症を引き起こす病気、腫瘍などが、おもな原因になっています。これらの病気に対する治療を行うことで、蛋白喪失性腸症も改善していきます。

### リンパ管拡張症

腸内のリンパ管が詰まる、破れるなどしてタンパク質がもれる

腸をめぐっているリンパ管の一部が詰まってふくらんだり、破れたりして、タンパク質を含むリンパ液が腸内へもれ出る病気です。腸の炎症や腫瘍などが原因になる場合もある一方、原因がわからないケースも。

治療法

超低脂肪食による  
食事療法が基本

### 炎症性腸疾患

腸の粘膜が炎症を起こし、タンパク質がもれ出る

胃や腸の粘膜に慢性的に炎症が引き起こされ、下痢や嘔吐、食欲不振などの症状が見られます。腸の粘膜に炎症があると、タンパク質が腸内にもれ出しやすくなるため、蛋白喪失性腸症になります。

治療法

薬の服用や食事療法  
などでコントロール

### 消化管型リンパ腫

リンパ腫の細胞が増殖して腸内に異常が起きる

胃や腸に見られる腫瘍で、しこりが発見されることも多く、胃や腸のリンパ節の腫れが確認されることも。腸内のしこりや、腸の腫れなどの影響で、タンパク質が腸内にもれ出し、蛋白喪失性腸症になります。

治療法

抗がん剤による  
化学療法が一般的

犬の現代病は、「いぬのきもち」で、毎月連載中! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。



アニコム損保ご契約者がマイページから定期購読を申込みと

**2号無料!!**  
(2ヶ月分)